オアシス

文責：副学長
桑 原 雅 次

出雲芸術アカデミーだより　２０２０年８月１２日発行　第２８号

夏本番の到来により、連日の暑さに体力の消耗を余儀なくされる毎日ですが、本アカデミーの各講座は三密を避けながら順調に推移しているところです。

さて、全国のコロナ感染の様子は、感染者が増加傾向にあることが報道等で理解できます。第２波の到来が疑わしいにもかかわらず、政府は一向に「第２波」という表現はしません…。その理由を各報道機関の情報から探ってみました。第１波の時に早々に臨時休業を決めた百貨店が、経済産業省に呼ばれて叱られたという記事がありました。また、第２波を宣言すれば何かしらの感染予防について方針を出さなくてはなりませんから、経済を停滞させないことを優先していることが伺えます。民間が勝手なことをすると叱られ、方針が出るのを黙って待っていると感染がますます広がる現状では、個人で対処するしかないことに気づかされます…。

◎ 常に学び続ける精神が人を豊かにする！

公開レッスンの様子

公開レッスンの様子

丸山氏による講義

本アカデミーでは、指導者を対象とした研究講座を定期的に実施しています。その中でも外部講師をお迎えして開催されるのが、「特別主位研究講座」です。今年度も音楽学が専門の“丸山桂介”氏の講義と公開レッスンが開催されました。今年で３回目となります。コロナ禍で開催が危ぶまれる中でしたが、学びたいという熱意が受講された皆さんからよく伝わりました。この研究講座を受講できる方は、今年から立ち上げた「出雲フィルハーモニー音楽家ネットワーク」の登録者（山陰地方を拠点に活動している音楽家・音楽教育家）と、本アカデミーの講座受講生（大人・学生）で構成され、一般からも音楽芸術に興味のある方ならどなたでも参加できるようになっています。コロナ禍の影響で演奏の場や音楽活動の機会を失った音楽家の多くは音楽への情熱が薄れており、力を失っている状態です。そのような時に今回の研究講座は、新たな時代・生活様式の中での音楽家及び愛好家としての活動の可能性を探るとても良い機会となりました。また、研鑽のためのレッスンを受けるにも他地域に出かけることもままならない現状において、音楽を知り尽くされている専門家から指導を受けられたことは、音楽の素晴らしさを再確認できると共に、表現者としての誇りを取り戻すことにもつながったことと推察できます。

今回の研究講座で私が一番印象に残っていることは、作曲家が熱意を込めて楽譜に残したメッセージを演奏家がどう読み解き、伝達者としての役割をどう果たすかということでした。そして、その自覚を持つことが真の演奏家であると語られていたことです。また、

演奏家は知らないことは表現できない事であり、曲が出来た時代背景や作曲家の心境を調査研究することの重要性を肌で感じ取ることができたことは、音楽を愛好する者にとってとても大きな収穫となりました。後日、丸山氏の書籍を購入した際に自筆のサインをいただきました。その言葉です。『音楽は人間の精神を映す鏡』と記してありました。音楽に対する心構えとして肝に銘じたいと思います。

《録音風景の様子！》

◎ 校歌プロジェクトが始動！

コロナ禍が拡大し、本アカデミー事業もことごとく中止となり、このような状況下で私たちにできる事はないものかと考えていました。一方で、学校現場でも感染防止のため臨時休校を余儀なくされたり、学校が再開されても儀式では必ず歌われる校歌も自粛されるなど音楽の授業にも大きく影響している現状を知りました。そこで、市内の小中学校の校歌をオーケストラ演奏でＣＤ録音し、各校へプレゼントをしようという企画が始まりました。この企画により、子どもたちへ良い音楽環境を提供できたことと思います。また、多くの音楽活動が中止や延期となり、困難に直面している本アカデミー関係者の芸術家にとってもまたとないよい機会となりました。

オーケストラ演奏は、本アカデミー指導スタッフを中心に２２名による出雲フィルハーモニー・チェンバーオーケストラ（室内オーケストラ）を編成し、指揮と指導を本アカデミー芸術監督である“中井章徳”氏が担当しました。中井氏は、小学校３４校分の校歌を入念にチェックする作業を延々と続けられ、録音現場でも団員への指示を細かくやり取りするなど、手抜きなしの芸術性の高い仕上がりに貢献していただきました。

今回は、小学校の録音のみですが、各地域の歴史や風情が感じられるよう雰囲気を大切にした仕上がりになっています。鑑賞するのもよし、オーケストラ伴奏で朗々と歌いあげることもでき、それぞれの校歌の持つ素晴らしさを改めて発見していただけるのではないかと思っているところです。

録音会場は、ビッグハート出雲「白のホール」で、ソーシャルディスタンスを図りながらステージいっぱいに配置し、飛沫感染予防を意識して取り組みました。出雲フィルハーモニーとして、録音事業は初めての経験でしたが、演奏者の皆さんは久しぶりの演奏に生き生きと臨まれ、合奏できることの喜びを堪能されているようでした。私も会場でスタッフとしてお手伝いをしていましたが、生演奏の素晴らしさをワクワクしながら聴くことができ、今後の演奏活動にも勇気を与えてくれたように感じました。オーケストラ版の録音が終わりましたので、今後は歌唱付きの録音を実施し、９月中には各小学校へお届けできるように努力していきたいと思っています。また、中学校の録音も今年度中に実施する予定です。

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します https://www.izumo-zaidan.jp/academy/】